

なぜ「非常用」は、そのとき使えないのか？——発電機・蓄電池・UPSを「持つ」だけでは守れない理由

Published: 2026-08-12 / Updated: 2026-08-12

Summary

「非常用発電機があるのに」「ポータブル蓄電池があるのに」なぜ停電時に困るのかを、一次エネルギーとSPOFから整理します。バッテリーは発電せず、発電機は燃料がなければ動きません。タイホ防災オフグリッドビルの2026年5月15日実測では、約10時間のオフグリッド運転後もSOC約70%を温存し、別電源へ無瞬断で移行しました。有事では最大容量より、残存エネルギーを監視し、重要負荷へ再配置できる自由度が重要です。

Key Points

- 非常用電源は、非常時のために置いておく「機器」ではありません。一次エネルギーを確保し、発電・蓄電・切替・監視・配電を通じて、限られたエネルギーを必要な時間・必要な場所・必要な負荷へ継続して届ける仕組みです。バッテリーはエネルギーを生まないため、容量だけを増やしても、燃料・充電源・送配電・接続が失われれば必ず頭打ちになります。
- 07:25から17:23まで約10時間、系統電力0kWでオフグリッド運転。夕方はSOC約70%を温存して別電源へ移行。
- ライブは秒単位で異常通知。過去解析は1分集計で偏差を探し、必要区間の1秒データへ遡る。
- 太陽光、蓄電、系統、ガス発電を組み合わせ、平時と災害時を分断しない電源運用を実装。
- 令和8年熊本地震の被害状況と保健・医療・福祉分野の対応を継続公表。

Source Article

<https://www.ieee802.co.jp/articles/article-209-emergency-power-supply.php>

© Kei Communication Technology Inc.

This document is a summary of the source article. For the latest information, refer to the source URL.